

会館芸術

第Ⅱ期・戦中篇

全13巻

【監修】長木誠司／ヘルマン・ゴチェフスキ／前島志保

【編集・解説】朝日会館・会館芸術研究会

協力：朝日新聞厚生文化事業団 朝日新聞社

●揃定価：本体234,000円＋税

ISBN978-4-8433-5225-0 C3370 B5判／上製／クロス装／カバー

第一回配本・全6巻

2017年9月刊行予定

全6巻揃定価：本体108,000円＋税

ISBN978-4-8433-5226-7 C3370

●第12巻●1938年（昭和13年）1月～6月

解説：山上揚平

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5228-1

●第13巻●1938年（昭和13年）7月～12月

解説：山上揚平

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5229-8

●第14巻●1939年（昭和14年）1月～6月

解説：高山花子

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5230-4

●第15巻●1939年（昭和14年）7月～12月

解説：高山花子

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5231-1

●第16巻●1940年（昭和15年）1月～3月

解説：中尾 薫

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5232-8

●第17巻●1940年（昭和15年）4月～6月

解説：山本美紀

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5233-5

第二回配本・全7巻

2017年12月刊行予定

全7巻揃定価：本体126,000円＋税

ISBN978-4-8433-5227-4 C3370

●第18巻●1940年（昭和15年）7月～9月

解説：白井史人

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5234-2

●第19巻●1940年（昭和15年）10月～12月

解説：前島志保

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5235-9

●第20巻●1941年（昭和16年）1月～3月

解説：井口 俊

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5236-6

●第21巻●1941年（昭和16年）4月～6月

解説：井口 俊

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5237-3

●第22巻●1941年（昭和16年）7月～9月

解説：茂木謙之介

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5238-0

●第23巻●1941年（昭和16年）10月～12月

解説：紙屋牧子

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5239-7

●第24巻●1942年（昭和17年）～1944年（昭和19年）

解説：紙屋牧子

定価：本体18,000円＋税

ISBN978-4-8433-5240-3

第Ⅰ期・戦前篇 全11巻

揃定価：本体198,000円＋税

ISBN978-4-8433-5088-1 C3370 B5判／上製／クロス装／カバー

■第一回配本■ 全5巻揃定価：本体90,000円＋税

ISBN978-4-8433-5089-8 C3370 2016年9月刊

1931年（昭和6年）～1934年（昭和9年）

■第二回配本■ 全6巻揃定価：本体108,000円＋税

ISBN978-4-8433-5090-4 C3370 2017年2月刊

1935年（昭和10年）～1937年（昭和12年）

映画公社
旧蔵
関連企画

戦時統制下映画資料集

【監修】東京国立近代美術館フィルムセンター

全34巻

終戦時の混乱を免れた第一級資料群!! ●揃定価：本体845,000円＋税

美術批評家著作選集

【監修】五十殿利治

全21巻●揃定価：本体429,000円＋税

近代日本の美術界に深い影響を与えた多彩な言説を批評家別に集成。

ゆまに
書房

〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL .03 (5296) 0491
FAX.03 (5296) 0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特にお薦めしたい方
近代美術史、モダニズム、映画、芸能、メディア史、文学、
日本近代史の研究者・研究所、大学図書館など。

ゆまに書房

Tel.03(5296)0491／Fax.03(5296)0493

年 月 日

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。

ご注文書

会館芸術 第Ⅱ期 戦中篇・全13巻

・□ 第1回・全6巻 ・□ 第2回・全7巻

セット

お名前

ご住所

TEL ()

取扱店

17.08/01.7000.RS

會館藝術

第Ⅱ期・戦中篇

全13巻

◆監修◆長木誠司 *CHOKI Seiji*

東京大学大学院総合文化研究科 教授

ヘルマン・ゴチェフスキ *Hermann GOTTSCHIEWSKI*

東京大学大学院総合文化研究科 教授

前島志保 *MAESHIMA Shiho*

東京大学大学院総合文化研究科 准教授

◆編集・解説◆朝日会館・会館芸術研究会

◆協力◆朝日新聞厚生文化事業団 朝日新聞社

◆解説執筆◆（50音順）

井口 俊 東京大学大学院総合文化研究科博士課程

紙屋牧子 東京国立近代美術館フィルムセンター特定研究員

白井史人 日本学術振興会特別研究員

高山花子 東京大学大学院総合文化研究科博士課程

中尾 薫 大阪大学大学院文学研究科准教授

前島志保

茂木謙之介 日本学術振興会特別研究員

山上揚平 東京芸術大学音楽学部非常勤講師

山本美紀 奈良学園大学人間教育学部教授

戦前期、関西モダニズム運動を牽引し、中心的役割を果たした総合文化雑誌

ゆまに書房

監修のことば



朝日会館 (出典・株式会社竹中工務店『建築写真帖』昭和二年再版)

評論記事から、短編・長編小説、国内外の著名人の随想・インタビュー、各国の文化事情の紹介までを盛り込んだ総合文化雑誌に発展した。その後様々に名前や規模を変えつつも1953年（昭和28年）までの長期にわたって発行され、一時期は全国展開も計画されていた『会館芸術』は、同時代の「阪神間モダニズム」とも相通じており、東京一極集中ではない近代日本の文化活動の在り方を示す好例と言える。全集未収録の著名人の作品・評論も多数掲載している本誌は、戦前から戦後にかけての様々な分野の展開に関する貴重な資料でもある。



長木誠司

東京大学大学院総合文化研究科 教授

ヘルマン・ゴチェフスキ

東京大学大学院総合文化研究科 教授

前島志保

東京大学大学院総合文化研究科 准教授

大阪朝日会館（以下「会館」）は1926年（大正15年）10月から1962年（昭和37年）10月まで大阪・中之島に存在し、「大阪の文化の中心」「文化の殿堂」と称されていた総合文化施設である。会館は母体の新聞社とは一定の距離を保ちながら、独自の公演、上演、展覧会、講演会など多彩な活動を展開し、関西の近代文化史において重要な役割を果たした。ここから1931年（昭和6年）に創刊された雑誌が、『会館芸術』（～1953年〈昭和28年〉／全222冊 朝日新聞社会事業団）である。同誌は会館の機関誌として出発したものの、創刊後数年で、音楽、舞踊、演劇、映画、美術、写真の解説・



●1941年10月号より

本書の特色

- 内容は、美術、映画、写真、演劇、舞踊、音楽、文学、評論、国内外の著名人の随想、落語、各国の文化事情の紹介等々、様々な分野にわたる資料の宝庫。
- 全集未収録の作品や評論も多数収録する極めて貴重な資料群である。
- 音楽：藤原義江、朝比奈隆、山田耕柞／演劇：千田是也／映画：淀川長治／文学：井伏鱒二、与謝野晶子／美術：藤田嗣治／舞踊：伊藤道郎等々、錚々たる執筆陣による第一級資料。
- 現存するものが極めて少なく、なかなか見ることのできない極めて稀少な雑誌である。
- 各巻巻末に「朝日会館・会館芸術研究会」による詳細な解説を付す。
- 第24巻には『会館芸術』の後継誌を収録。『七月の朝日会館』（1942年。他に同年10月、1943年2月、3月、5月を収録予定）／『大阪文化』（1943年6月～1944年4月）／『厚生文化』（1944年5月～10月）。

◆主要記事◆

- 1938年
 - ・北村喜八「新劇・今後の動向」（1月号）
 - ・川端龍子「『大陸策』第二作」（1月号）
 - ・杉浦エノスケ・横山エンタツ「笑鶯隊員帰還報告」（3月号）
 - ・藤原義江「南米・欧州の楽界を聴く」（8月号）
 - ・芥田武夫「職業野球を語る」（10月号）
 - ・内海幽水「大阪の文化を語る」（12月号）
- 1939年
 - ・岩崎昶「ニュース映画論」（6月号）
 - ・与謝野晶子「夏山抄」（7月号）
- 1940年
 - ・長谷川如是閑「日本芸術のテンポ」（1月号）
 - ・「皇紀二千六百年奉祝国民芸能祭について」（1月号）
 - ・「日本オペラの今昔を語る座談会」（3月号）
 - ・「特集 女流芸術家訪問記」（6月号）
 - ・中山岩太「国際写真サロン写真感」（12月号）
- 1941年
 - ・片岡千恵蔵「映画と日本精神」（2月号）
- 1942年
 - ・山口誓子「鳥蟲」（『十月の朝日会館』）
- 1943年
 - ・金剛巖「新才能と大衆化」（『大阪文化』9月号）
- 1944年
 - ・朝比奈隆「上海通信」（『大阪文化』4月号）